

目指すべきまちの将来ビジョン

～市民の声で! 市民の手で! まちづくり市民会議～

加東市が発足し、一年が経過します。市では現在、総合計画の策定に取り組んでいます。この計画策定はこれからの時代にふさわしいまちづくりを目指す計画として、重要な位置づけとなります。

総合計画とは

地域市民の総力を結集し、地域の当面している広範な課題に対処するものです。「基本構想」「基本計画」「実施計画」からなる構成とし、基本構想と基本計画を一体のものとして作成。これを受けて、別に毎年度実施計画を作成します。

総合計画は、行政がつくるというイメージがありますが、決してそうではありません。策定にあたっては、公共的団体の職員、見識を有する人、市民代表などで構成される「総合計画審議会」、一般公募や地区選出による「まちづくり



市民会議」の、このほど行った「市民アンケート」、一般市民からの意見募集など、さまざまな方法で市民の参加を得ながら、市民の声を反映した計画づくりを進めています。

まちづくり市民会議とは

その中でも、市民組織である「まちづくり市民会議」は、地域の現

況分析やまちの将来目標を見据え、市民の視点に立った意見を提言・集約していく場として、重要な役割を任せています。

委員は二十三人で、分野ごとに精通されている方々で構成されています。主に、総合計画の策定に関する事項の調査や検討を行い、テーマ別に意見交換や議論などを積み重ねています。現在は、月二回のペースで会議が開催され、第七回を数えています。

この会議は、全体会と部会の二部構成となっています。部会の集約や内容確認は全体会で行い、それぞれのテーマについては三つの部会にわかれて、ワーキングを取り入れながら検討を進めています。

【文化・協働部会】

- ・ 地域文化
- ・ 国際交流
- ・ 学校教育
- ・ 生涯学習
- ・ スポーツ
- ・ コミュニティ
- ・ 行財政の改革

【安全安心部会】

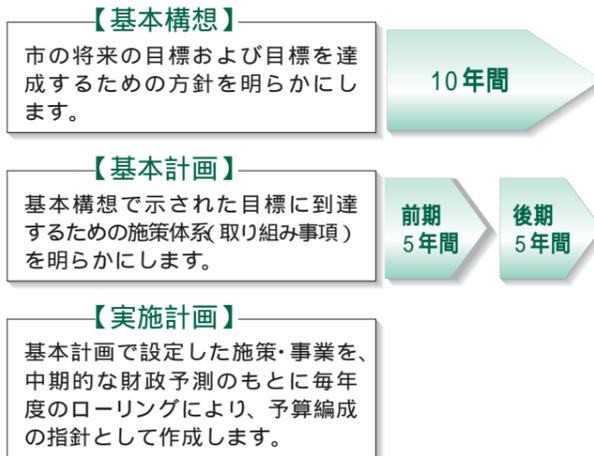
- ・ 自然の保全・活用
- ・ 安全なまち
- ・ 防犯の強化
- ・ 子育て
- ・ 健康
- ・ 福祉
- ・ 医療

【活力・快適部会】

- ・ 農業
- ・ 産業
- ・ 観光
- ・ 雇用
- ・ 住環境
- ・ 情報通信
- ・ 交通

図1

総合計画の構成



2 SWOT分析とは?

おもにマーケティングに使う経営分析法として考案され、組織の内部環境と外部環境の2つに分け、内部に持つ「強み・弱み」と外部から影響を受けると考えられる「機会・脅威」を整理しながら分析を進める手法です。

弱点の克服よりも、長所や持ち味といった強みに目を向け、これらを生かすことで弱みを薄めるといった発想と多くの意見を挙げることにより、論議を活性化させる効果と多様な立場から意見が交わされることによる論点の整理が期待できます。

SWOT分析表の例

	内 部 環 境	
	強み(S) (人、モノ、金、風土)	弱み(W) (人、モノ、金、風土)
外部環境	求められること(O) (少子高齢化、環境など12項目)	改善すべきこと
	してはならないこと(T)	退くべきこと

より市民の声を取り入れるためには

現在までの進捗状況ですが、策定方針の決定、市の将来目標となる言葉キーワード(抽出)の抽出や政策をイメージするタイトル出しといった細かい作業から市が目指していくべき政策の検討まで順を追って行っているところです。(図2参照)

また、今回の会議では、KJ法やSWOT分析といった手法を取り入れていくのが特徴です。思い通りに話し合い、議論するだけでは意見がまとまりません。多くの議論とこつこつとした手法の組み合わせにより、毎回、成果のある会議を目標に取り組んでいます。今後の取り組みなどについて、市民会議委員であり座長でもある森田啓之さんは、二十三名の委員が十一月を第一回として七回の会議を重ねてきました。加東市の現状と課題、よいところ、悪いところ(を多角的に分析すること)で、これからの加東市のおおまかな取り組みの方向性が見えてまいりました。ただ、旧の他町の事情についてお互い知らない点も多く、今後できるだけ情報を共有する中で、『加東市らしい』、そして現実的な『政策』の作成に貢献できればと考えています。といった抱負を述べておられます。

今後、委員のみならずには、加東市の目指すべきまちづくりの検討について、引き続きご尽力いただきたいと思います。

図2

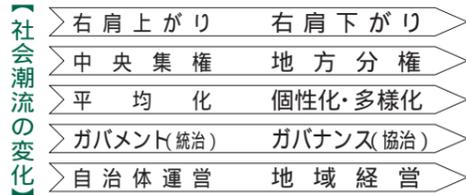
これまでの「まちづくり市民会議」の活動状況

- 第1回 会議の活動方針、市総合計画の策定、市民アンケート調査についてなど
- 第2回 会議の部会構成と役割分担、将来像・理念の検討、まちづくりの方向の検討(言葉の抽出)など
- 第3回 中学生アンケート集計結果の確認、まちづくりの方向の検討(前回の継続)など
- 第4回 SWOT分析の手順把握、政策タイトルの確認、KJ法によるまちづくりの方向の検討(継続)など
- 第5回 SWOT分析の手順把握、加東市の現状と課題の共通認識、SWOT分析ワーキングなど
- 第6回 SWOT分析(自由な発想から現実的選択への展開)など
- 第7回 テーマの分析を完成、政策骨子案に向けての検討など

図3

これから目指す総合計画

地方自治(まちづくり)を取り巻く社会潮流の変化を考え合わせ、今回の総合計画は次のような方針に基づいた策定を目指します。



これから目指す総合計画策定のポイント

- 地域資源の有効活用と地域経営
～地域の資源を企業の経営センスをもってマネジメントする計画とします～
- 市民参加による計画策定
～協働と役割分担のまちづくりに向けた市民参加による計画策定とします～
- 成果志向型で市民に分かりやすい計画
～施策体系を行政内部執行(分野)型から、市民生活重視(テーマ)型へ組み替えます～
- 「あれもこれも」から「あれとこれ」のまちづくり
～限りある資源から最大限の効果を生み出す計画とします～

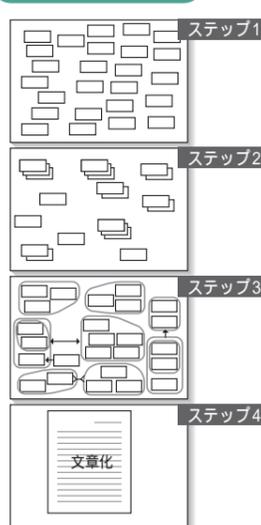
1 KJ法とは?

会議を行う上で、さまざまな意見を効率よくまとめていく方法で、カード・付箋などを使用し、情報の管理や整理などを行います。

- テーマから思いつく情報をできるだけ出す。
- 関連(類似)するもの同士をグループ化する。
- グループにタイトルをつける。
- 配置整理し、共通点を考え図解化する。
- 図解化の意味を考え、文章化する。

この方法では、参加者が問題点を共有したり、自発性が促進されるといった利点があります。

KJ法のイメージ図



計画策定に向けて

地方自治(まちづくり)の社会情勢を踏まえ、これからの総合計画には、企業の経営センス、協働・役割分担によるまちづくり、市民生活重視型、限りある資源で最大限の効果という観点が求められます。(図3参照)

策定にあたっては、市民のみなさんのご意見をいただきながら、審議会の答申を受け、平成十九年度末策定にむけて作業を進めていきます。策定の進捗状況については、今後ホームページや広報を通じてお知らせしていきます。

問い合わせは企画部企画政策課(☎43-0388)まで